普段の生活の中で何があったらよいか

●幅広い世代から街なかに公園を求める声が多く出ました。その他、ギャラリーや勉強スペースといった憩いの場となる施設の要望もありました。

●公園や憩いの場ができることで、外出や交流のきっかけ、健康づくりになると考えている方が多くいました。

●街なかに案内看板が少ないので、デザイン性があり、統一感のある看板整備が必要との声も複数ありました。併せて、歩きたくなるような遊歩道の整備を求める声もありました。

住民の声

- □子育て世代として、街なかに公園がないのは気になる。
  また、日曜日こそ図書館のような施設を開けて欲しい。
- □公園は高齢者にとっても交流（外出）のきっかけになる。
  人が歩きたくなるような取組みを行って欲しい。健康にも良い。
- □駅の近くにギャラリーや学生が勉強できるスペースがあると良い。
- □人が集まれるたまり場のような場所が欲しい。
  昔は街なかに高齢者が集まれる場所があった。
- □街なかに案内看板が少ない。観光客にお店の場所をよく聞かれる。
  デザイン性があり、統一感のある看板が必要。
- □下仁田町は上野村、南牧村、軽井沢町の玄関口とも言える。
  ここに寄ればこのエリア全体の情報が手に入るインフォメーションセンター（機能）があるとよい。
- □歩きたくなるような遊歩道があった方がよい。
  諏訪神社の参道という位置づけで中央通りを整備したらどうか。

子育て世代の方々との意見交換

空き家、空き店舗に対する意見、新たな活用方法

- 既に空き家を利活用した事例も出てきており、利活用を推し進める声が大多数でした。
  併せて、利活用に向けた各種支援、サポート体制の整備を求める声も多くありました。
- 商店ありきではなく、居住空間としての活用も視野にいれるべきとの意見がありました。
- こんにゃく体験道場は立地条件が良い（街なかに来る人の拠点）にも関わらず、現状、活用頻度が低いので、
  有効活用方法を検討した方がよいとの声が多くありました。

住民の声

- □既に空き家を活用した飲食の新規出店が出始めている。
  業界が若返るのでうれしい。今後の色々な取組みについても話がしやすい。
- □どんどんやるべき。空き家を活用して流行りものを誘致したらよい。
- □生活に馴染む店がよい。町民もそういった場所があれば行く。
- □人口増加策として空き家に安く住まわせてあげるのはよい。
- □移住時に下仁田はよそ者に冷たいイメージを持った。
  移住者を増やすのであれば、ハードだけでなく、ソフト面のサポート、ケアが必要だと思う。
- □地元の店がみんな美味しいから中途半端なことはしない方がよい。
  遊休不動産の活用にこだわる必要はない。
- □こんにゃく体験道場を有効活用した方がいい。
  道場周辺は観光客も多いので利活用の拠点とするのはもってこい。
- □こんにゃく体験道場は立地的にも滞在するにはうってつけの場所。
  まずは、核となる拠点を整備しないと街なか全体（町民）の気運も高まらない。

改修前

改修後

空き家・空き店舗の活用事例：Café華まる（下仁田町）

街なかの活性化事業に対する意見、考慮して欲しいこと

● 長期的な戦略を立てること、多様な方々が参画できるまちづくりを望む声が多くありました。

● 情報発信が弱いので、テレビやSNS等を活用した積極的な情報発信を求める声がありました。

● 景観整備には経費もかかるので慎重な意見も多くいただきました。

● 高齢者が多いという現状から介護・福祉の取組みを通して、雇用や人口を守るアイデアもいただきました。

住民の声

- □ テレビやSNS等を使った情報発信が重要である。
- □ 多様性、他者を参画させるまちづくりが理想。
- □ レトロのためにお金をかけるのであれば、違うところに使って欲しい。
- □ 景観整備についてはもう手遅れ。今更感が強い。
  景観維持をやるならば、小規模でやっても意味がない。
- □ 自然環境は魅力なので、地域資源として捉えてみてはどうか。
- □ 移住の際に土地探しに苦労した。
  持ち主が分からない物件も多いので、情報を取りまとめる仕組みが必要。
- □ 高齢化率が50％以上の町なので、介護施設や福祉施設を誘致して、
  雇用や人口を守る。その方が下仁田町らしい活性化になるのではないか。
- □ これまで町の取組みには連続性がない。
  長期スパンで戦略をもった形で進めて欲しい。

SNS等を活用した情報発信

街なかの目指すべき姿

これまでの取組み内容から街なかが目指す姿をまとめました。

地域資源を活かした
（歴史・文化を活用した）

住みたくなる

訪れたくなる

生涯活躍ができる

多様な交流が生まれる

ヒト・モノ・経済の好循環が生まれる

コンパクトで便利な

町民満足度の高い

笑顔があふれる

新たな取組みが生まれる

街なかに 暮らす人、来る人、関わる人
みんなが“ワクワク”する気持ちを持って過ごせる空間を創出する。

事業コンセプト

つどう　つながる　つくりだす　街なか

世代を超えて　一歩踏み出す　あなたを　応援するまち

つどう

まちに人がつどい、自分ゴトとして地域を考える

街なかに人が集まり、交流を通じて、これからの地域のありたい姿、
地域の問題や課題について自分ゴトとして考える。

つながる

人と人が繋がり、連携した新たな取組みが始まる

地域のありたい姿を実現しようとする人と人が繋がり、
地域資源（街並み、食文化、自然など）を活用した新たな取組みが試行的に動きはじめる。

つくりだす

地域のヒト・モノ・経済の好循環をつくりだす

新たな取組みによって地域に活力が生まれ（ブランド力の向上）、新たなビジネスが創出したり、
生活環境が向上したり、来訪者が増えたり、地域のヒト・モノの好循環をつくりだす。

基本方針（3つの柱）

つどう

■つどいの場の創出【下仁田駅周辺】

情報拠点（地域資源、観光案内等）、読書スペースやカフェ等のくつろぎの空間、
地域住民や高校生の憩いの場の整備 ほか

■街なかの拠点整備【こんにゃく体験道場周辺】

芝生広場、マルシェスペース、シェアキッチン、カルチャースペース、
地元特産品の販売スペースの整備 ほか

つながる

■居住空間等の整備

遊休不動産の実態把握、空き家バンクの充実、マッチング支援体制の強化、
空き家対策支援、子育て支援の強化 ほか

■地域人材の育成

地域で活動する人材、団体の育成、特色のある「地域探究」活動（教育機関との連携）、
地域活動団体への支援 ほか

つくりだす

■新たなビジネスの創出

起業支援制度の設立、地元特産品を活用した商品開発、
イノベーションコンテストの開催 ほか

■地域資源を活用した戦略的な情報発信

シティプロモーション、シビック・プライドの醸成、フィルムコミッション活動、
SNS等を活用した情報発信 ほか

未来の街なかの様子

取組内容（1）つどいの場の創出【下仁田駅周辺】

■誰もがつどえる空間

ライブラリー

コーヒースタンド

セミナールーム

つどにわライブラリー（前橋市）

情報発信

下仁田町観光案内所

線路脇のテラス

やまなテラス（高崎市）

■コンセプト

- 用途を限定せず、様々な使い方を促す
- ターゲットを限定せず、誰でも入りやすく

■こんな利用（場）が想定できる

- 読書や趣味が楽しめ、勉強もできる、多世代がつどえる
- 豊かな自然や電車をゆっくり眺めることのできる憩いの空間（新たな町のスポット）
- 学生の地域探究（フィールドワーク）の拠点
- 来訪者が情報（観光情報や地元のオススメ情報）を収集できる
- 電車やバスの待ち時間にゆっくり過ごせる

事例紹介：つどにわライブラリー

銀行の建物内にあるオープンスペース。ライブラリーやコワーキング、セミナールームのほか、コーヒースタンドなどが整備されている。ライブラリーでは、趣味の書籍などが置かれ、読書が楽しめるほか、中学生や高校生が学習したり、仕事もできる。銀行が休みの日でも開放しており、誰でも自由に使用でき、地域に開かれた空間になっている。

取組内容（2）街なか拠点整備【こんにゃく体験道場周辺】

■町民の憩いの空間

みんなの公園（佐賀県江北町）［設計 ： OpenA + ランドスケープ・プラス共同体］

土合朝市（みなかみ町）

NAKAKONYA - まちなか朝市（高崎市）

■コンセプト

- 開かれた芝生広場、様々な利用を促す
- 日常をちょっと豊かにする

■こんな利用（場）が想定できる

- 子供達が安心して遊べる、大人たちが憩える
- 定期的に朝市、マーケットなどが開催される
- 人々がつどい、新たな交流が生まれる
- 町内で手に入らないものが買える【町民】
- 町の良いものを知れる、買える。再訪問のきっかけになる【来訪者】
- 街なかの拠点（自動車、バイク利用者ほか）、地域資源を発信する場

事例紹介：みんなの公園

みんなが広く利用できる公共空間として、町民の声を反映させて整備した公園。子供達が寝転んだり、走りまわったりできる芝生広場や木製遊具、カフェ、キッズスペースを備えているほか、様々なイベントも開催されるなど、いつ行っても楽しく、居心地の良い空間。家族連れを中心に年間約5万人（江北町の人口の約5倍）の利用者が訪れている。

取組内容（2）街なか拠点整備【こんにゃく体験道場周辺】

■下仁田町を体感する空間

こんにゃく手作り体験

下仁田ネギの大名焼き

下仁田 “ならでは”の体験

短期出店可能なシェアキッチン

まちなか工房 CHU-BORN（前橋市）

ご当地フードの販売

■コンセプト

- 既存施設の機能拡張
- 下仁田町 “ならでは” の体験ができる

■こんな利用（場）が想定できる

- こんにゃく手作り体験や下仁田ネギの大名焼きなど、下仁田町ならではの体験ができる
- 下仁田町の特産品やご当地フードを買い、食べることができる
- マーケットの出店者、下仁田町への出店を考えている人がシェアキッチンを利用できる
- 空き時間には、施設内で囲碁や将棋や編み物教室、下仁田ネギの料理教室などが開催される

事例紹介：まちなか工房 CHU-BORN

キッチンカーからのステップアップや飲食店のトライアル営業など、やってみたいけれども自宅では保健所の許可が下りない、まずは週末だけ出店して反応をみたいなど、利用者の多様なニーズに応える場。実際にシェアキッチン利用者がその後、近隣にお店を構えるケースも出てきている。空き時間には、料理教室などの利用も可能であり、誰もが気軽に利用できる場になっている。

取組内容（3）地域の特産品を活用した商品開発

■新たなビジネスの創出

ワカサギビスケット（前橋市）

ご当地自動販売機（太田市）

■コンセプト

- 新規コンテンツの開発
- 手軽に地域の特産品が手に入る

■こんな利用（場）が想定できる

- 地域資源を活用したコンテンツができる
- 新たな雇用、販売機会、ビジネスチャンスが創出される
- いつ来ても下仁田町や県内の特産品を手軽に購入できる
- 新規出店者にとってチャレンジがしやすい環境が整備できる

事例紹介：ご当地自動販売機（OTA CITY MARKET）

来訪者と市民向けの2種類の自動販売機を駅や市役所、商業施設に設置している。来訪者向けには「市内のおみやげ（エコバッグ、靴下、だるまなど）」、市民に向けには「市内の事業所のスイーツなど」を中心に販売している。いつでも手軽に購入できるため、売り上げも好調に推移しており、市のプロモーションイベント等でも活用されている。

取組内容（4）情報発信の強化【地域密着マップの配布】

■分かりやすい情報発信

地域密着マップ

帯広温泉銭湯マップ2022年改訂版（HOTEL NUPKA：北海道帯広市）

■コンセプト

・街なかの回遊を促す
・魅力だけでなく注意事項もやわらかく伝える

■こんな利用（場）が想定できる

・地元住民しか知らない情報が手に入る
・地域の魅力を感じながら街なかを周遊する人達が出てくる
・1人あたりの滞在時間、消費額が増加する
・下仁田町に行ってみたい、また来たいという人達が増える
・地元住民が困っていた問題が解消する（狭い路地に車で入って来てしまう など）

マップ配布場所

道の駅 しもにた、こんにゃく体験道場、下仁田駅、町内飲食店、高崎駅。※WEB／SNSにも情報掲載

事例紹介：帯広温泉銭湯マップ（チームヤムヤム作成）

来訪者や利用者の視点に立ち、温泉情報だけでなく、地域のグルメや商店、街並みなど、まちのコンテンツをイラストを交え、分かりやすく紹介している。

ホテルでの評判も良く、来訪者に重宝されている。このマップを片手に持ちながら、来訪者が街中を周遊するなど、その効果が出ている。

取組内容（5）行政支援の充実

■移住支援

・町内に住宅を新築して定住する人に対して奨励金を支給します。
・新たに町外からの移住世帯に対して奨励金を支給します。

改 定 ： ふるさと定住促進奨励金
新 規 ： 移住促進奨励金

■空き家等利活用補助金

・空き家の利活用を図るため、空き家バンク登録者に対して、空き家等の片付け・改修費の一部を支援します。
・新たに空き家バンク登録物件を購入、賃借する人に対してもその経費の一部を支援します。
・ぐんま優良木材（構造材のうち群馬県の優良木材を60％以上使用）を使用した住宅を建設する人に対して補助金を交付します。

改 定 ： ふるさと定住促進奨励金
新 規 ： 移住促進奨励金

■子育て支援

・出産子育てを応援するため、新たに妊娠届時と出生時に助成を行います。
・従来の出産祝金に加え、新たに育児支援として、満1歳から満5歳までの誕生日を迎えた児童に支援金を支給します。
・また、これまでの入学祝金制度（小中学校入学時）の拡充を図ります。
・その他、学校給食無料化、子ども医療費無料化などの取組みを実施しています。

新 規 ： 出産子育て応援交付金
改 定 ： 出産祝金
新 規 ： 育児支援金
新 規 ： 入学祝金

出会い ▶ 結 婚 ▶ 出 産
定 住 ▶ 教 育 ▶ 生 活

事業スケジュール

年度	2023（令和5）	2024（令和6）	2025（令和7）	2026（令和8）	2027（令和9）
つどいの場の創出 下仁田駅周辺	事業検討・事業化	整備			
街なか拠点整備 こんにゃく体験道場周辺	事業検討・事業化		整備		
	【検討事項】施設機能・規模、運営方法ほか				
居住空間等の整備 空き家、子育て支援対策の強化	遊休不動産調査・空き家バンクの充実、マッチング支援体制の強化				
	子育て支援の強化、見直し				
地域人材の育成 特色ある地域探究 地域活動団体支援	実施体制検討	地域探究活動の開始			
	地域で活動する人材・団体の育成、支援体制の強化				
新たなビジネスの創出	起業支援制度検討、起業支援策の強化				
	イノベーションコンテストの開催、地元特産品を活用した商品開発				
戦略的な情報発信 シビックプライド醸成 SNS等による情報発信	企画検討	地域資源を活用したシティプロモーション			
	SNS等を活用した情報発信、フィルムコミッション活動				

街なかの新たな動き

街なかを活性化させようと、想いを持った人達の新たな動きが広がってきました。

分科会員の有志による子ども向けイベント

子ども向けのスケートボード教室とマルシェ

既存の取組み

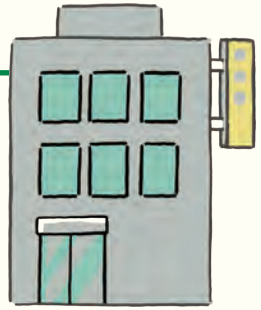
子どもから大人まで楽しめるフェス

町の魅力を発信するイベント

事業の実施体制

住民、事業者・金融機関、教育機関、行政など、地域に関わる人々が連携し、それぞれの強みを活かして、
街なかの活性化に向けた各種取組みを進めていきます。

事業者
金融機関



教育機関

住　民

行　政

街なかに 暮らす人、来る人、関わる人
みんなが"ワクワク"する気持ちを持って過ごせる空間を創出する。